

夏の美術館巡り

8/24/2015

北村社会福祉士事務所

代表 北村弘之

猛暑の中、暑さ逃れを第一に、そして第二は冷静沈着な思考気分になりたいと思い、美術作品巡りをしてきました。映画を映画館で観るように、美術鑑賞もその場所の臨場感に浸ることができ、いつかの「心の静養」となりました。

私は、絵を描くことはありませんが、30歳代でロートレックやセザンヌ、モネ、ルノワールなどの印象派の絵画を観るのが楽しみでしたが、最近では、横山大観や竹内栖鳳、伊藤若冲などの日本画も好むようになりました。

今夏は、都内丸の内にある「三菱一号館美術館」、横浜みなとみらいにある「横浜美術館」、そして箱根にあります「岡田美術館」を巡ってきました。それぞれに特徴のある展示会でした。

【画家河鍋暁斎かわなべきょうさい（三菱一号館美術館）】

今回は、「画鬼 暁斎」のタイトル。副題は何と「狂ってたのは、俺か、時代か?」なのです。明治時代に活躍した画家河鍋暁斎かわなべきょうさいの作品を中心とした展示で、その弟子であるコンドル(明治時代に三菱の建物を設計)の作品もありました。暁斎を師として日本画の世界に入り、その絵は外国人と思えぬ繊細な筆で描かれていました。

作品を見て一番驚いたことは、明治初期にどのようにして、あのような繊細な絵を描けたのか、また年代とともにその描き方や対象物がどのようにして変わっていったかでした。どうも、繊細な絵は、狩野派の教えにあったことをあとで知りました。また、作品の対象は、人との出会いなどで変わっていったのでしょうか。初期のころは狩野派の流儀に則った生き生きとした作品を描き、その後、死体を見て描いたという幽霊の絵、そして鯉の躍動感あふれる作品。春画や風俗画、そして動物画と多彩な絵がありました。

人は、年月を経るごとに様々な経験をしていきます。

そして、ものごとを観る価値感も年代ごとに変わっていくということ、暁斎の絵を見て改めて感じました。



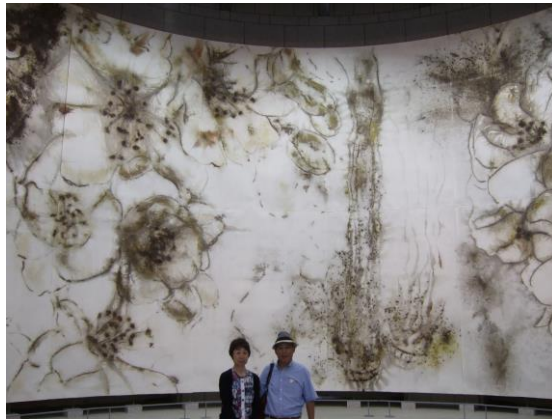
【現代アート 蔡国强さいこつきょう（横浜美術館）】

中国出身で、現在ニューヨークを中心にグローバルな活動をしている、現代アートの「蔡国强」の作品展を横浜美術館で鑑賞しました。今回私は初めて知ったのですが、2008年の北京オリンピックの開会式の花火の演出を担当された人なのです。

何と言っても、作品は「火薬アート」なのです。当日美術館の正面には高さ8m 横幅24mにも及ぶ「夜桜」という作品が展示されていました。(次頁) これは、開催前に美術館のロビーを数日間閉鎖して、実際に描かれたものなのです。それも、構想はもちろん作者本人ですが、作る過程では、多くの地元の人が協力して作り上げるというものです。実際の絵は本人が描き、下絵を

もとに切り込みをいれたり、火薬を用いたあとの消化は地元の人が行うのです。彼は作品を作る際、地元の歴史や風土を知り、そして仲間を募って描くというのがポリシーのようです。地元そして地元の人を尊重する考えなのかもしれません。

また、「壁^{かべつ}撞き」という、小学校の体育館ほどの広さに展示された作品がありました。これは、ドイツ銀行に展示されているものを持ち込んだというもので、99体の狼を使ったものです。狼が壁に向かって行っては落下し、また挑んでいくものを表したものです。これはどうもベルリンの壁を表しており、見えない壁に挑戦していくことの難しさを表したものとされていました。



「夜桜」

写真では全体を写すことはできておりませんが、右にあるのが桜模様で、黒くなっている部分が実際に火薬を用いて火をつけ焼いた部分です。この桜は、横山大観の作品が原点のようです。

この作家は、これまでにない「火薬ドロ잉」といった新しい絵画の境地を築いておりますが、その独創性は生まれ故郷の中国福建省であった中台紛争にあったようです。

この火薬ドロ잉は新しい境地を開いたと同時に、人々に火薬(爆弾)の重大さを知らせることになりそうです。

【箱根 岡田美術館】

数年前、箱根に開館した私設美術館です。箱根らしく、足湯があり座敷風の離れの食事処もありました。今回の目玉は喜田川歌麿の「深川の雪」です。この絵は明治時代に描かれたもののフランスに流出したのち、日本に戻り、作品展後にまた行方不明になったもので、近年日本で展示があり、それを岡田美術館が購入したものです。浮世絵の独特な色使い、そして人の表現に驚かされました。

このようにして、有名な絵画が行方不明になることを初めて知りました。

また、美術館全体が大型とあって、横山大観の富士山をはじめ、東洋の焼き物、中国の青銅器などがあり、早く見ても2時間はかかるという展示物の多さでした。

私にとっては、鍋島藩(現佐賀県)の白磁模様の絵皿は文様の美しさ、また色使いといい、目を引き付けたよい美術品でした。

場所は箱根小涌園の隣です。入場料はちょっと高めなのですが、大人の雰囲気満載で、心落ち着けるよい美術館です。

以上